

区分	番号	学位論文	全著者名、論文名、掲載誌名、掲載年;巻(号):ページ番号	国際共同
英文原著	1		Omoto T, Kim-Kaneyama J-R, Lei X-F, Orimo A, Ohnishi K, Yoshihara K, Miyauchi A, Li S, Gao L, Umemoto T, Tanaka J, Nakahara K, Takeya M, Ishida F, Kudo S, Haraguchi S, Miyazaki T and Miyazaki A., The impact of stromal Hic-5 on the tumorigenesis of colorectal cancer through lysyl oxidase induction and stromal remodeling. <i>Oncogene</i> , 2017; Dec 15. doi: 10.1038/s41388-017-0033-y	
英文原著	2		Nakaoka HJ, Tanei Z, Hara T, Weng JS, Kanamori A, Hayashi T, Sato H, Orimo A, Otsuji K, Tada K, Morikawa T, Sasaki T, Fukayama M, Seiki M, Murakami Y, Sakamoto T. Mint3-mediated L1CAM expression in fibroblasts promotes cancer cell proliferation via integrin $\alpha 5 \beta 1$ and tumour growth. <i>Oncogenesis</i> . 2017; 6(5):e334.	
英文原著	3		Namba Y, Togo S, Tulafu M, Kadoya K, Nagahama KY, Taka H, Kaga N, Orimo A, Liu X, Takahashi K. Combination of glycopyrronium and indacaterol inhibits carbachol-induced ERK5 signal in fibrotic processes., <i>Respir Res</i> . 2017; 18: 46.	
英文原著	4		Hamano Y, Suzuki K, Ito F: Epitopic specificity of MPO-ANCA in Japanese ANCA-associated vasculitis patients. <i>Rheumatology</i> , 2017; 56 (supple.3): 126, 201	
英文原著	5		Takigawa M, Masutomi H, Kishimoto Y, Shimazaki Y, Hamano Y, Kondo Y, Arai T, Lee J, Ishii T, Mori Y, Ishigami A: Time-Dependent Alterations of Vancomycin-Induced Nephrotoxicity in Mice. <i>Biol Pharm Bull.</i> , 2017; 40: 975-983	
英文原著	6		Ito-Ihara T, Furuta S, Komagata Y, Muso E, Endo T, Uchida S, Kono H, Hamano Y: Two international multiregional investigator initiated clinical trials on vasculitis: collaboration with EUVAS, VCRC, and Nationwide vasculitis study groups of Japan. <i>Rheumatology</i> , 2017; 56 (supple.3): 149	
英文原著	7		Kono H, Uchida S, Muso E, Endo T, Kakita H, Hamano Y: Demographic characteristics of Japanese participants in PEXIVAS as compared with REMIT-JAV. <i>Rheumatology</i> , 2017, 56 (supple.3): 150	
英文原著	8		Tsuchiya Y, Namiuchi Y, Wako H and Tsurui H. A study of CDR3 loop dynamics reveals distinct mechanisms of peptide recognition by T-cell receptors exhibiting different levels of cross-reactivity. <i>Immunology</i> , 2017; 153: 466-478	
英文原著	9		Kobayashi T, Sundaram D, Nakata K, Tsurui H, Gray-level co-occurrence matrix analysis of several cell types in mouse brain using resolution-enhanced photothermal microscopy. <i>J. Biomed. Opt.</i> , 2017; 22(3): 036011	
区分	番号		全著者名、論文名、掲載誌名、掲載年;巻(号):ページ番号	国際共同
英文総説	1		Hino O, Kobayashi T. Mourning Dr. Alfred G. Knudson: the two-hit hypothesis, tumor suppressor gene, and the tuberous sclerosis complex. <i>Cancer Sci</i> , 2017; 118: 5-11	
区分	番号		全著者名、タイトル、雑誌名、掲載年;巻(号):ページ番号	国際共同
英文症例報告	1		Sekiguchi Y, Wakabayashi M, Takizawa H, Sugimoto K, Tomita S, Izumi H, Nakamura N, Sawada T, Ohta Y, Komatsu N, Noguchi M. A case of Waldenstrom Macroglobulinemia in which intermittent one-day administration cycles of bendamustine were effective for alleviation of nausea and maintenance of remission. <i>J Clin Exp Hematop</i> . 2017; 57(2):79-81.	

英文症例報告	2	Tsuzuki Y, Kikuchi I, Nojima M, Yoshida K, Hashizume A, Tomita S. A Case Report: Ovarian Sertoli-Leydig Cell Tumor With Hyperestrogenism and Endometrial Hyperplasia in a Postmenopausal Woman. Jpn Clin Med. 2017; Mar 14;8:1179066017695239.	
英文症例報告	3	Sekiguchi Y, Takizawa H, Inano T, Fukuda Y, Wakabayashi M, Sugimoto K, Tomita S, Izumi H, Nakamura N, Sawada T, Ohta Y, Komatsu N, Noguchi M. Three cases of relapsed/refractory multiple myeloma under hemodialysis treated with panobinostat/bortezomib/dexamethasone (FVD). Int J Hematol. 2017; 106(4):581-587.	
英文症例報告	4	Ikeda K, Nakajima S, Tanji K, Hirai T, Uomori K, Morimoto S, Tomita S, Fukunaga M, Tamura N, Sekigawa I. Intestinal perforation due to hemorrhagic Cytomegalovirus enteritis in a patient with severe uncontrolled lupus nephritis: a case and review of the literature. Rheumatol Int. 2017; 37(8):1395-1399	
英文症例報告	5	Arano N, Morio Y, Futagawa T, Hashizume A, Nagashima O, Sasaki SI, Tominaga S, Takahashi K. Lung metastases from cutaneous adenoid cystic carcinoma 23 years after initial treatment. Respir Med Case Rep. 2017; Apr 19;21:121-123.	
英文症例報告	6	Suyama Y, Tanaka M, Fujii Y, Toriyama A, Houjou S. Adult Female with Fever and Groin Pain. J Emerg Med. 2017; Dec 15. pii: S0736-4679(17)31096-X	
区分	番号	発表者名、発表タイトル(題目・演題・課題等)、学会名、場所、発表年月日等	国際共同
国際学会発表	1	Kashii H, Hagino Y, Kasai S, Sato A, Kobayashi T, Hino O, Mizuguchi M, Ikeda K. Rapamycin treatment of impaired social behavior in adolescent Tsc2+/- mice. The 5th Congress of Asian Colledge of Neuropsychopharmacology. Bali, Indonesia, April 29, 2017	
国際学会発表	2	Kobayashi T, Hino O. Exploring TSC protein complex/mTORC1-regulated genes in tumor cell lines derived from the Tsc1 knockout mouse. 2017 International Research Conference on TSC and LAM, Washington DC, USA, June 23, 2017	
区分	番号	全著者名、論文名、掲載誌名、掲載年;巻(号):ページ番号	国際共同
和文総説	1	樋野興夫: 遺伝病も単なる個性である社会構築を目指して～「がん哲学&がん哲学外来」～。日本遺伝カウンセリング学会誌、2017; 38: 41-45	
和文総説	2	鳥山茜, 泉浩, 富田茂樹. 【腎生検・病理診断-臨床と病理の架け橋】(第3章)腎病変とその成り立ち、正常腎組織(糸球体、尿細管、血管). 腎と透析, 2017; 82(増刊):150-155.	
和文総説	3	八尾 隆史, 福村 由紀, 村上 敬, 佐伯 春美, 仲程 純, 岸川 さつき, 【知っておきたいまれな大腸良性疾患】まれな大腸良性疾患の生検・組織診断 病理の立場から、胃と腸、2017; 52(6):790-798	
区分	番号	全著者名、書籍名、出版社名、出版年;巻(号):ページ番号等	国際共同
和文著書	1	樋野興夫: がんばりすぎない、悲しみすぎない。「がん患者の家族」のための言葉の処方箋。講談社、2017; 総ページ194page	
和文著書	2	樋野興夫: いい人生は、最後の5年で決まる。SBクリエイティブ、2017; 総ページ176page	

和文著書	3	樋野興夫、柳田邦男:人の心に贈り物を残していく。悟空出版、2017; 総ページ256page	
和文著書	4	樋野興夫:苦しみを癒やす「無頓着」のすすめ。ブックマン社、2017; 総ページ212page	
和文著書	5	樋野興夫:人生から期待される行き方。主婦の友社、2017; 総ページ208page	
区分	番号	全著者名、タイトル、雑誌名、掲載年;巻(号):ページ番号	国際共同
和文症例報告	1	鳥山 茜, 佐伯 春美, 泉 浩, 中村 博, 野島 美知夫, 吉田 幸洋, 富田 茂樹、低分化成分を伴う卵巣gynandroblastomaの1例、診断病理、2017; 34(1):56-60	
区分	番号	発表者名、発表タイトル(題目・演題・課題等)、学会名、場所、発表年月日等	国際共同
国内学会発表	1	山野三紀、工藤進英、小川悠史、若村邦彦、林 武雅、森 悠一、片桐 敦、國村利明、樋野興夫、藤岡保範:当院における大腸鋸菌状病変の検討。第106回日本病理学会総会、平成29年4月27日～29日、東京 p309	
国内学会発表	2	ワリ ナディラ、梶野一徳、佐伯春美、May Thinzar Hlaing、大辻奈穂美、樋野興夫:臍帯の変色を認め、臍帯管の血栓形成が疑われた子宮内胎児死亡の1例。第106回日本病理学会総会、平成29年4月27日～29日、東京 p368	
国内学会発表	3	小柳 愛、富田茂樹、橋本和彦、鳥山 茜、佐伯春美、泉 浩、山村彰彦、樋野興夫、藤盛孝博:部分的に顕著な細胞異型を呈した高齢者空腸低分化腺癌の一例。第106回日本病理学会総会、平成29年4月27日～29日、東京 p380	
国内学会発表	4	佐伯春美、鳥山 茜、小柳 愛、橋本和彦、鈴木通真、泉 浩、富田茂樹、辻村 晃、樋野興夫:多発性嚢胞腎に発生した多発する腎細胞癌早期病変の一例。第106回日本病理学会総会、平成29年4月27日～29日、東京 p384	
国内学会発表	5	佐伯春美、梶野一徳、堀本義哉、Wali Nadila、May Thinzar Hlaning、大辻奈穂美、樋野興夫:散発性子宮内膜癌における腫瘍内浸潤リンパ球とミスマッチ修復異常。第106回日本病理学会総会、平成29年4月27日～29日、東京 p458	
国内学会発表	6	富田茂樹、小島 勝、清水 梓、小柳 愛、鳥山 茜、佐伯春美、泉 浩、樋野興夫:皮下腫瘍として採取されたPTGC様を呈した反応性リンパ球増殖症の一例。第106回日本病理学会総会、平成29年4月27日～29日、東京 p476	
国内学会発表	7	佐伯春美、何 聰、福村由紀、荒川敦、平山貴士、藤野一成、楠木総司、太田剛志、寺尾泰久、竹田省、松本俊治、八尾隆史、樋野興夫:子宮内膜間質細胞との関連性が示唆された子宮体部原発骨肉腫の一例。第59回日本婦人科腫瘍学会学術講演会、平成29年7月27～29日、熊本	
国内学会発表	8	目澤義弘、樋野興夫、折茂彰:癌関連線維芽細胞におけるヒストン脱アセチル化酵素とTGF-βシグナルのクロストーク。平成29年度若手支援技術講習会、平成29年9月7～9日、蓼科	
国内学会発表	9	小林敏之、樋野興夫:Hamartinによる代謝関連遺伝子発現制御。第76回日本癌学会総会、平成29年9月28～30日、横浜 p101	

国内学会発表	10	佐伯春美、梶野一徳、堀本義哉、Nadila Wali、Thenzar Hlaing May、大辻奈穂美、樋野興夫：子宮内膜癌におけるミスマッチ修復異常と腫瘍内浸潤リンパ球。第76回日本癌学会総会、平成29年9月28～30日、横浜 p105
国内学会発表	11	折茂彰、伊藤恭彦、目澤義弘、スリダン カディア、ワリ ナディア、樋野興夫、竹田和由、浜田道昭、松村優子：CAFsは上皮系及び間葉系の癌細胞クラスターを形成することにより乳癌細胞の浸潤・転移を促進する。第76回日本癌学会総会、平成29年9月28～30日、横浜 p141
国内学会発表	12	松岡周二、水谷奈津子、八木田秀雄、高松博幸、樋野興夫：抗MHC class I, II抗体による活性リンパ球と悪性リンパ腫、ATL細胞、患者DLBCL細胞のアナポコーシス細胞死。第76回日本癌学会総会、平成29年9月28～30日、横浜 p149
国内学会発表	13	目澤義弘、森本幾夫、樋野興夫、折茂彰：癌関連線維芽細胞はTGF-β/Smad2/3経路の活性化によりCD26の発現を抑制する。第76回日本癌学会総会、平成29年9月28～30日、横浜 p185
国内学会発表	14	大久保捷奇、目澤義弘、伊藤恭彦、樋野興夫、折茂彰：癌関連線維芽細胞(CAF)ではエンドグリンの発現が亢進し、CAFの癌促進作用を媒介している。第76回日本癌学会総会、平成29年9月28～30日、横浜 p185
国内学会発表	15	韓 博、梶野一徳、小島雅貴、ワリ ナディア、マイ テインザー ライン、悦 亮、樋野興夫：上皮型と肉腫型中皮腫の分化が可逆的である可能性。第76回日本癌学会総会、平成29年9月28～30日、横浜 p197
国内学会発表	16	野村幸男、樋野興夫、新井正美：MLH1遺伝子とBRCA1遺伝子プロモーター領域の高感度メチル化DNA解析。第76回日本癌学会総会、平成29年9月28～30日、横浜 p253
国内学会発表	17	伊藤恭彦、松村優子、目澤義弘、ソリタン カディア、ワリ ナディア、寺尾保久、竹田省、奥村康、竹田和由、樋野興夫、折茂彰：癌内線維芽細胞は、部分的に間葉系細胞の性質を有した高上皮系の乳癌細胞クラスターの転移を促進する。第76回日本癌学会総会、平成29年9月28～30日、横浜 p255
国内学会発表	18	烏山茜、佐伯春美、泉 浩、富田茂樹、樋野興夫：当院での肺転移性腫瘍細胞診症例の臨床病理学的検討。第76回日本癌学会総会、平成29年9月28～30日、横浜 p269
国内学会発表	19	西川桂子、小林敏之、樋野興夫：ラット由来Tsc2欠損ES細胞にみられるエピゲノム・遺伝子発現異常。生命科学系学会合同年次大会(第40回日本分子生物学会、第90回日本生化学会大会)、平成29年12月6日～9日、神戸
国内学会発表	20	富田 茂樹。M 蛋白に関連する腎病変 (M 蛋白関連腎症)、第15 回日本腎病理協会研究会。信濃町、2017年1月7日。
国内学会発表	21	富田 茂樹、橋爪 茜、泉 浩、佐伯 春美、永坂 邦彦、福永 正氣、pT2(MP)大腸癌浸潤先進部位とリンパ球の集簇像をともなう炎症細胞巣について第86回 大腸癌研究会、盛岡、2017年1月20日。
国内学会発表	22	須山 正幸、北沢 尚子、岩本 志穂、荻原 伸悟、竹村 勇治、川上 智寛、鈴木 真由、野元 勇佑、中津 洋一、西 慎二郎、深見 久美子、大川 博基、磯野 峻輔、北村 庸雄、須山 正文、泉 浩、富田 茂樹、渡辺 純夫。家族性大腸腺腫症に胃病変を合併した2症例の検討。第103回 日本消化器病学会総会、新宿、2017年4月20日。
国内学会発表	23	富田 茂樹。、取扱い規約について。コンパニオンミーティング、第106回 日本病理学会総会、新宿、2017年4月27日。
国内学会発表	24	中島 啓、泉 浩、橋本 和彦、中村 博、烏山 茜、佐伯 春美、國分 克寿、松坂 賢一、富田 茂樹、井上 孝、耳下腺に発生した癌肉腫と診断した一例。第106回 日本病理学会総会、新宿、2017年4月28日。

国内学会発表	25	鳥山 茜, 佐伯 春美, 泉 浩, 富田 茂樹, 塩澤 晃人, 肥後 隆三郎, 芳川 洋, 鼻性視神経症に対し施行した蝶形骨洞開放術にて、転移性前立腺癌であった1例, 第106回 日本病理学会総会, 新宿, 2017年4月28日.	
国内学会発表	26	橋本 和彦, 泉 浩, 中島 啓, 小柳 愛, 佐伯 春美, 鳥山 茜, 富田 茂樹, 宮内 潤, 井上 孝, 腓頭部漿液性嚢胞腺腫の一例, 第106回 日本病理学会総会, 新宿, 2017年4月28日.	
国内学会発表	27	橋爪 茜, 佐伯 春美, 泉 浩, 奥山 直子, 岡崎 哲也, 中村 博, 喜納 勝成, 富田 茂樹, 鈴木 千賀子, 野島 美知夫, 子宮腺肉腫の2例, 第58回日本臨床細胞学会総会, 大阪, 2017年5月26日.	
国内学会発表	28	富田 茂樹, 佐伯 春美, 橋爪 茜, 泉 浩, 本田 大介, 毎熊 政行, 高原 久嗣, 林野 久紀, 上田 善彦, 飯高 和成, ループス腎炎における炎症性細胞浸潤巣の基本的検討[第一報]. 第60回日本腎臓学会学術総会, 仙台, 2017年5月26日.	
国内学会発表	29	荻原 恵理子, 福永 正氣, 永坂 邦彦, 須田 健, 明神 真由, 東 大輔, 富田 茂樹, 両側乳癌を疑った胸壁デスマイド腫瘍の1例, 第25回 日本乳癌学会学術総会, 福岡, 2017年7月14日.	
国内学会発表	30	富田 茂樹 佐伯 春美, 橋爪 茜, 泉 浩, 小野田 翔, 石光 俊彦, 経過中に血小板減少、破碎赤血球像を呈したループス腎炎の一例. 第47回日本腎臓学会東部学術総会, 横浜, 2017年10月28日.	
国内学会発表	31	越田 剛生, 木原 正夫, 鈴木 仁, 禾 千絵子, 佐伯 春美, 富田 茂樹, 鈴木 祐介, 慢性骨髄性白血病薬ダサチニブによりネフローゼ症候群を呈した一例. 第47回日本腎臓学会東部学術総会, 横浜, 2017年10月28日.	
国内学会発表	32	富田 茂樹. シンポジウム9 確定診断につながる検査とその実際. 確定診断につながる検査とその実際確定診断につながる免疫組織化学的検討. 第47回日本腎臓学会東部学術総会, 横浜, 2017年10月29日.	
国内学会発表	33	富田 茂樹. 「リンパ節転移陰性大腸癌におけるEXが予後に与える臨床病理学的意義」病理シンポジウム1『外科と病理の協調 病理医は外科医からの疑問にどう応えるか』 カテゴリー: Part2消化管、乳腺. 第22回日本外科病理学会学術集会, 宇都宮, 2017年11月11日	
国内学会発表	34	橋爪 茜, 佐伯 春美, 中澤 武司, 富田 茂樹, 三宅 一徳, 石 和久, 齊藤 啓, 乳腺基質産生癌(Metaplastic carcinoma)の2例, 第64回日本臨床検査学会, 京都, 2017年11月16日	
国内学会発表	35	富田 茂樹, 北沢 尚子, 橋爪 茜, 泉 浩, 佐伯 春美, 長田 太郎, 福永 正氣. 粘膜下層でのリンパ濾胞と考えたリンパ球の集簇像への浸潤を認めたpT1b(SM)病変の一例. 第30回早期大腸癌研究会. 仙台, 2017年11月30日.	
国内学会発表	36	柏井洋文, 笠井慎也, 萩野洋子, 佐藤敦志, 古田島浩子, 田中美歩, 小林敏之, 樋野興夫, 岡 明, 水口 雅, 池田和隆: Tsc2ヘテロ欠損マウスの自閉症様行動に対するrapamycinの継続投与の効果とその副作用の検討, 第39回日本生物学的精神医学会・第47回日本神経精神薬理学会合同年会, 札幌, 2017年9月28日	
国内学会発表	37	柏井洋文, 笠井慎也, 萩野洋子, 佐藤敦志, 古田島浩子, 田中美歩, 小林敏之, 樋野興夫, 岡 明, 水口 雅, 池田和隆: 結節性硬化症モデルマウスにおける幼若期NMDA投与による点頭様発作の解析, 第51回日本てんかん学会学術集会, 京都, 2017年11月3日	
国内学会発表	38	岡澤 裕, 水越幸輔, 大久保 捷奇, Kaidiliavi Sulidan, 小山 侑, 小島 豊, 五藤倫敏, 折茂 彰, 坂本一博: 講演: 中間型上皮間葉移行による患者大腸癌細胞クラスターの転移への寄与, 第72回日本消化器外科学会総会 7月20日~22日2017年 金沢	
国内学会発表	39	水越幸輔, 岡澤 裕, 小山 侑, 大久保 捷奇, Kaidiliavi Sulidan, 伊藤恭彦, 小見山博光, 小島 豊, 五藤倫敏, 垣生園子, 樋野興夫, 折茂 彰, 坂本一博: 講演: 患者大腸癌由来PDXおよびオルガノイドを使用した転移モデルの樹立, 第28回 日本消化器癌発生学会総会 2017年11月17日(金) ~ 18日(土) 熊本	

国内学会発表	40	濱野慶朋, 梶野一徳, 林大久生, 佐伯春美, 松岡周二, 小林敏之, 杉谷善信, 折茂彰, 岸川さつき, 荒川敦, 樋野興夫, 八尾隆史: 肺結節性病変の中に小血管炎と著明な好酸球浸潤を認めたPR3-ANCA陽性の一例. 脈管学 58: 36, 2018 (発表は第22回日本血管病理研究会、平成29年11月11日 東京(東邦大学医療センター大橋病院))
国内学会発表	41	濱野慶朋, 伊藤吹夕, 鈴木章一, 鈴木治, 古浦美奈子, 梶野一徳, 佐伯春美, 松岡周二, 小林敏之, 杉谷善信, 折茂彰, 樋野興夫, 湯村和子, 丸山直記, 亀岡洋祐, 鈴木和男: 新しいANCA関連血管炎自然発症モデルSICMの病理学的解析、第23回MPO研究会、帝京大学、東京、2017
国内学会発表	42	松岡周二: 悪性リンパ腫細胞やATL細胞をアナポコーシス(Anapocosis)によって破壊する治療抗体 第21回日本がん分子標的治療学会学術集会 九州大学百年講堂平成29年6月16日
国内学会発表	43	松岡周二: Cell Death of activated lymphocytes and lymphoma/leukemia cells induced by MHC class I and II mAbs (Anapocosis) 抗体医薬開発の新しい戦略 (シンポジウム)第76回日本癌学会学術集会 横浜パシフィコ2017年9月19日
国内学会発表	44	Matsuoka S, Yagita H, Uchida K: Anapocosis: Direct cell death of lymphoma cells induced by mAbs、第46回日本免疫学会学術集会、仙台国際センター、2017年12月12日
国内学会発表	45	Harada M, Sugimoto A, Matsuoka Si, Takemori T: CD81 is associated with non-apoptotic cell death in B cell lymphoma cell lines through HLA-DR alpha/beta engagement 第46回日本免疫学会学術集会、仙台国際センター、2017年12月12日
国内学会発表	46	Tsurui H, Tsuchiya Y, Namiuchi Y, Wako H: Characterization of TCR-pMHC interaction at residue-level based on FMO and PIEDA, CBI学会、東京、平成29年10月3日
国内学会発表	47	Tsuchiya Y, Namiuchi Y, Wako H, Tsurui H: The distinct dynamic mechanisms of peptide recognition by specific and cross-reactive T-cell receptors. CBI学会、東京、平成29年10月3日
国内学会発表	48	Tsurui H: PreciMHCse estimation of residue-residue interaction in TCR-pMHC complex by Fragment Molecular Orbital (FMO) calculation. 日本免疫学会学術集会、仙台、平成29年12月12日
国内学会発表	49	山田敦子, 氏平崇文, 瀬山理恵, 石田ゆり, 大塚彩, 笠原華子, 小泉朱里, 都築陽欧子, 宮国泰香, 鈴木千賀子, 田嶋敦, 菊地盤, 野島美知夫, 吉田幸洋, 佐伯春美, 当院のSmooth muscle tumor of uncertain malignant potential(STUMP)と診断された症例の検討、第59回日本婦人科腫瘍学会学術講演会、熊本、2017年7月29日
国内学会発表	50	何聰, 福村由紀, 鳥山茜, 小倉加奈子, 笹原典子, 三谷恵子, 八尾隆史. 幽門腺腺腫(PGA)および幽門腺化生(PM)の胆嚢発癌における意義の検討. 第106回日本病理学会総会、平成29年4月27日～29日、東京
国内学会発表	51	石井惇也, 小笠原有紀, 鈴木恭子, 橋爪茜, 大日方薫, 岡崎任晴: 腹腔鏡下開窓術を施行した巨大肝嚢胞の1例、日本小児科学会、平成29年4月14日～16日、東京
国内学会発表	52	中村博, 磯村考, 市川彩果, 坪内優子, 岡崎哲也, 奥山直子, 喜納勝成, 橋爪茜, 鈴木千賀子, 泉浩. 細胞診の内部精度管理 ISO取得を目指した内部精度管理の取り組み. 第58回日本臨床細胞学会、平成29年5月26日～5月28日、大阪
国内学会発表	53	橋爪茜, 佐伯春美, 泉浩, 富田茂樹, 塩澤晃人, 肥後隆三郎, 芳川洋、平松一平、辻村晃. 鼻性視神経症を呈した、前立腺癌の1例～デガレリクスの使用経験を踏まえ～. 総武泌尿器科病理研究会、平成29年6月10日、越谷
国内学会発表	54	難波由喜子, 鳥山茜, 泉浩, 佐々木信一, 富田茂樹: 両側にスリガラス影を認めた肺疾患の一例. 呼吸器病理研究会、2017.8.19、広島市立病院

国内学会発表	55	福村 由紀, 何 聰, 高瀬 優, 橋爪 茜, 小倉 加奈子, 笹原 典子, 三谷 恵子, 八尾 隆史. 幽門腺腺腫(PGA)および幽門腺化生(PM)の胆嚢発癌における意義の検討. 第53回日本胆道学会、平成29年9月28日～29日、山形	
国内学会発表	56	Sugitani Y. et al. Different functional mode of Brn factors in temporally cordinated production of neocortical cell diversity. 発生生物学会、東京、2017年5月10日	
区分	番号	発表者名、演題、学会名、場所、発表年月日等	国際共同
特別講演・招待講演	1	樋野興夫: 病気は人生の夏休み～病気であっても、病人ではない～。米子医療センター・がん医療講演会、平成29年2月4日、米子	
特別講演・招待講演	2	樋野興夫: “がん”も単なる個性。福井県済生会病院集学的がん診療センター・がん教育特別授業「生きるの教室」、平成29年3月4日、福井	
特別講演・招待講演	3	樋野興夫: がん哲学外来～医療の隙間を埋める～。平成28年度緩和ケアを考える集い、平成29年3月5日、島根	
特別講演・招待講演	4	樋野興夫: がん哲学外来～「状況の悪い時こそ明るい面を見よ」～。市民公開講座 第30回センターセミナー・第28回がん情報提供の会、平成29年3月23日、獨協大学	
特別講演・招待講演	5	樋野興夫: 遺伝病も単なる個性である社会構築を目指して～「がん哲学&がん哲学外来」～。第41回日本遺伝カウンセリング学会学術集会、平成29年6月23日～25日、大阪	
特別講演・招待講演	6	樋野興夫: 「がん哲学外来～人生から期待されている価値ある存在～」。第60回鳥取県公衆衛生学会、平成29年7月6日、米子	
特別講演・招待講演	7	樋野興夫: 見据える勇気～「凜として生きる為に」～。がん哲学外来市民学会第6回大会、平成29年7月9日、神戸	
特別講演・招待講演	8	樋野興夫: 楕円形の精神～遺伝性がんと環境発がん～。第23回日本家族性腫瘍学会学術集会、平成29年8月4～5日、札幌	
特別講演・招待講演	9	樋野興夫: がんを丸ごと理解する病理学。第76回日本癌学会総会、平成29年9月28～30日、横浜 p225	
特別講演・招待講演	10	樋野興夫: 「がんを哲学する？」～「吉田富三記念福島がん哲学外来」での学びから～。平成29年度第1回臨床腫瘍セミナー。平成29年10月3日、福島	
特別講演・招待講演	11	樋野興夫: 言葉の処方箋～あなたはそこにいるだけで価値ある存在。登米市がん予防特別講演会、平成29年10月26日、宮城県登米市	
特別講演・招待講演	12	樋野興夫: がんと生きる哲学。九州大学病院がんセンター市民公開講座。平成29年11月18日、福岡	

特別講演・招待講演	13	樋野興夫:がん教育と新渡戸稲造—病気であっても、病人ではない—。第10回岩手県がんフォーラム。平成29年11月23日、岩手	
特別講演・招待講演	14	樋野興夫:“がん”も単なる個性。福井県済生会病院 集学的がん診療センター/がん教育特別授業「青少年のためのがんセミナー」。平成29年11月25日、福井	
区分	番号	発明者名、発明の名称、出願番号	国際共同
知的財産権の出願・取得等	1	水谷奈津子、阿部雅明、松岡周二、大辻奈穂美、羽多野良、樋野興夫、抗CD10抗体 JP2017/023104 米国	
区分	番号	発表者名・著者名、活動内容・タイトル等、掲載・発表情報等	国際共同
その他 (広報活動を含む)	1	樋野興夫:「医療の協働体の時代に向けて～Medical Village構想～」。Cardiovascular Anesthesia, 21: 7, 2017	
その他 (広報活動を含む)	2	藤原康弘、勝俣範之、樋野興夫:クロージングセッション「SHIN・新、真、信・時代の幕開け」。ジャパンキャンサーフォーラム、平成29年8月19～20日、日本橋 (パネリスト)	
その他 (広報活動を含む)	3	富田茂樹:司会. 細胞診 病理勉強会. 体腔液・肺癌 第7回病理研修会, 浦安, 2017年2月18日.	
その他 (広報活動を含む)	4	富田茂樹:司会. 食道病理勉強会.第8回病理研修会, 浦安, 2017年3月14日.	
その他 (広報活動を含む)	5	富田茂樹: 座長. 悪性腫瘍と腎障害 腎生検病理診断取扱い規約に向けて.コンパニオンミーティング, 第106回 日本病理学会総会, 新宿, 2017年4月27日.	
その他 (広報活動を含む)	6	富田茂樹, 腎生検の病理診断 第70回 Seminar in Diagnostic Pathology 岩手医科大学病理診断学講座, 盛岡, 2017年7月20日	
その他 (広報活動を含む)	7	富田茂樹:司会. 大腸腫瘍病理勉強会.第9回病理研修会, 浦安, 2017年10月3日.	
その他 (広報活動を含む)	8	富田茂樹:司会. 細胞診 病理勉強会. 乳腺・肝胆膵 第10回病理研修会, 浦安, 2017年10月31日.	
その他 (広報活動を含む)	9	折茂彰:Olaratumab Non-Clinical Researchアドバイザー会議出席、業務:プレゼンターおよびアドバイザー、平成29年5月15日 9時30分～15時15分ステーションコンファレンス東京	
その他 (広報活動を含む)	10	折茂彰:座長:[J11-2] 一般口演(和)癌微小環境 第76回日本癌学会学術総会、横浜、2017年9月29日	

その他 (広報活動を含む)	11	折茂彰: 第2回イノベーター・オブ・ザ・イヤー諮問委員	
その他 (広報活動を含む)	12	佐伯 春美、医学の懸け橋～私が病理医になるまで、文部科学省新学術領域研究『学術研究支援基盤形成』コホート・生体試料支援プラットフォーム主催 青少年のためのがんセミナー、宇都宮、2017年1月9日	